

3 上昇した企業物価と消費者物価

2013年度の企業物価（全国）は、国際商品市況や為替相場の動きなどを背景に、2年ぶりに上昇した。消費者物価（名古屋市）は、電気代等の公共料金の上昇や、石油製品等のエネルギー価格が上昇したことなどから5年ぶりに上昇した。

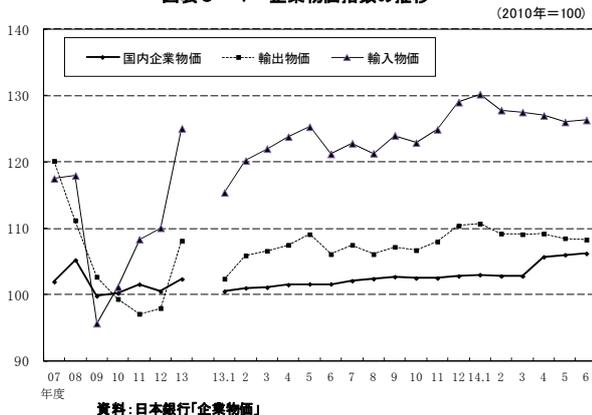
（2年ぶりに上昇した企業物価）

企業物価の動きを全国でみると、2013年度の国内企業物価指数（2010年=100）は、102.4となり前年度に比べ1.8%上昇し、2年ぶりの上昇となった。

輸出物価指数は108.1で、前年度比で10.4%と大幅に上昇し、2年連続の上昇となった。

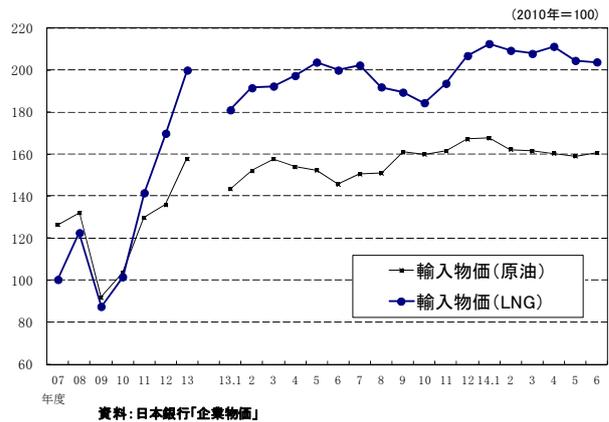
輸入物価指数は125.1となり、前年度比で13.6%と大幅に上昇し、為替相場や原油・天然ガスの価格上昇を背景に4年連続の上昇となった。（図表3-1）。

図表3-1 企業物価指数の推移



輸入物価指数でウェイトの高い原油、液化天然ガスをみると、原油は11年度は対前年度比25.6%上昇、12年度は同4.7%上昇に続き、13年度も同16.1%上昇と10年度から4年連続で上昇した。原発停止に伴う火力発電の代替により11年度から輸入量が大きく増加した液化天然ガス（LNG）は、11年度は同39.3%上昇、12年度は同20.0%上昇し、続く13年度も同17.7%上昇し、10年度から4年連続で上昇した（図表3-2）。

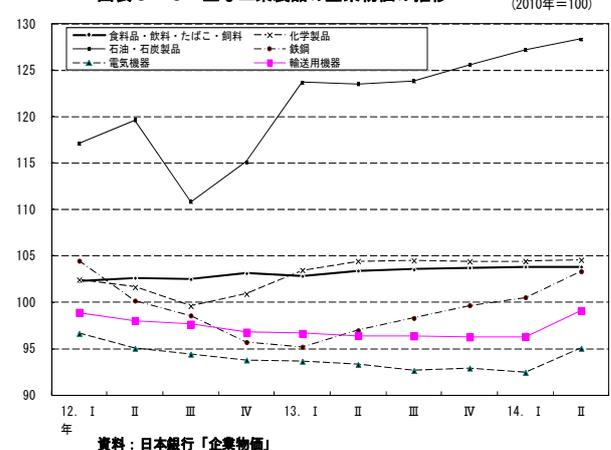
図表3-2 輸入物価指数（原油、LNG）の推移



（原油高の影響を受けた石油・石炭製品）

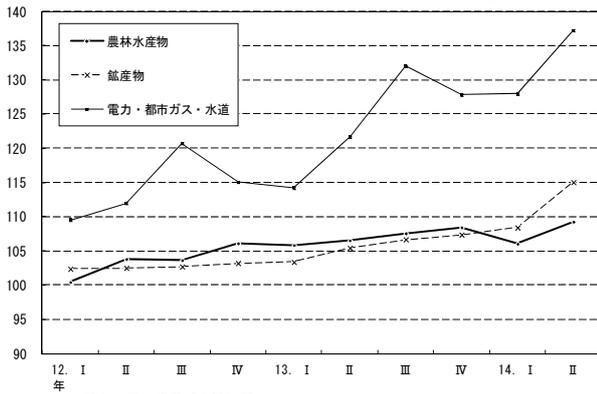
2013年度の国内企業物価を四半期別でみると、石油・石炭製品は、原油高の影響を受けて12年度末に急激に上昇し、13年4-6月期以降も緩やかに上昇し、14年4-6月まで高い水準を維持した。鉄鋼は、前年度の需給バランスの悪化から回復し、13年4-6月期は7四半期ぶりに上昇し、その後も14年4-6月期まで緩やかに上昇した（図表3-3）。

図表3-3 主な工業製品の企業物価の推移



電力・都市ガス・水道は、電気料金の改定等の影響を受け、13年4-6月期から7-9月期にかけて大きく上昇し、その後も為替相場動向を反映した燃料コストの上昇等が影響し、14年4-6月期まで高い水準で推移した。農林水産物は14年1-3月期に若干下落したが、13年4-6月期から14年4-6月期にかけて、鉱産物とともに緩やかな上昇傾向がみられた（図表3-4）。

図表3-4 工業製品以外の企業物価の推移 (2010年=100)



資料：日本銀行「企業物価」

(5年ぶりに上昇した消費者物価)

消費者物価の動向を名古屋市消費者物価指数(2010年=100)の動きでみると、13年度の総合物価指数は100.3と前年度に比べ0.8%上昇し、5年ぶりの上昇となった。電気代等の公共料金の上昇や、石油製品や食料工業製品に値上げの動きがみられ、プラスに寄与したものと考えられる。

月別でみると、前月比は13年2月まで下落傾向が続いていたが、3月には光熱・水道、交通・通信、諸雑費が上昇したことにより、指数が上昇に転じ、7月には指数が100.0となり、13年度末まで上昇傾向が続いた。14年4月になると、消費税率引き上げの影響もあり、さらに大幅に上昇した。対前年同月比では、13年7月以降はプラスに転じ、その後も年度末にかけて勢いよく上昇した。14年4月以降は、消費税率引き上げの影響もあり、3%以上の上昇率が続いた(図表3-5)。

図表3-5 消費者物価指数の推移(名古屋市) (2010年=100) (%)

